

令和2年9月25日

「国立大学法人の戦略的経営実現に向けた検討会議」中間とりまとめ（案）
に対する意見

東京大学総長 五神 真

○ “多様なステークホルダーとのエンゲージメント” について

- エンゲージメント：丁寧で徹底した対話をつうじて、相互の積極的な関与（コミットメント）を明確化したうえで、互いの役割などの理解を深め、築きあげた信頼関係をもとに互恵的に協働すること。
- ステークホルダー：機能を拡張した国立大学法人の多様なステークホルダーは、国の他に、学生、その保護者、卒業生、共同研究等を進める企業、企業団体、投資家、寄附者、地方自治体、地域の市民、初等中等教育関係者（特に高等学校関係者）、公私立大学、国際社会など多様であり、それぞれどのようなエンゲージメントを形成するか、相手により異なることに留意が必要。

○ 今後の検討に向けて

- デジタル革新、Society 5.0への転換戦略における大学の役割を具体的に今後検討すべき。
- 国際的な視点に加え、地方の視点を強化する。地方の国立大学の機能拡張を起爆剤として、社会変革を日本全体でどう進めるのか描いていく。

以上